

平成18年5月12日

各 位

会 社 名 アライドテレシスホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼CEO 大嶋 章 禎
(コード番号: 6835 東証第2部)
問合せ先責任者 経営企画部副部長 精木 琢 己
(TEL . 03-5437-6007)

業績予想(連結)の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成18年2月20日の「平成17年12月期決算短信(連結)」にて公表した平成18年12月期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成18年12月期 中間連結業績予想数値の修正(平成18年1月1日～平成18年6月30日)

(単位: 百万円)

(中間期)	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	28,200	530	220
今回修正予想(B)	28,200	100	50
増減額(B-A)	-	430	170
増減率(%)	-	81.1%	77.3%
(ご参考) 前期実績(平成17年6月期)	26,915	520	127

尚、通期(平成18年1月1日～平成18年12月31日)の業績予想につきましては、現時点での変更はございません。

(通期)	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想	70,500	1,330	570

2. 業績予想修正の理由

当第1四半期の連結業績につきましては、期待のIPトリプルプレイ・ソリューションが、欧米地域において順調に立ち上がってきており、トリプルプレイを中心とした事業者との契約数は160契約以上に達した結果、売上高は前年度に比較して欧米地域で16.6%、アジア・オセアニア地域で36.9%増加しました。しかしながら、レガシー製品を中心とする日本においては、官公庁向けの営業が伸び悩み、売上高は前年同期比93.7%にとどまるなど、採算の良い国内営業が伸び悩みとなりました。売上高は14,259百万円(前年同期比2.9%増)、営業損失は126百万円、経常損失は224百万円、当期純損失は345百万円となりました。

今後につきましては、欧米におけるIPトリプルプレイ・ソリューションの契約数は着実に伸びていること、先般、当社の欧州子会社がIBM A/S社と国際調達ベンダー契約を交わし、それに加え、他の大手SIも当社のIPトリプルプレイ・ソリューションビジネスに加わることから、年後半にかけて大型案件の開拓が見込まれること、またレガシービジネスでは、現在開発中のギガレイヤー3製品、Power over Ethernet製品を第2四半期に市場に投入出来る予定であり、年後半には収益に貢献し始める見込みであることから、通期では平成18年2月20日の「平成17年12月期決算短信(連結)」にて公表した平成18年12月期の通期の連結業績予想は達成可能と考えております。しかしながら、中間期におきましては、第1四半期の経常損失を中間期までに回復させることは困難との判断から、上記のように修正いたします。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上